

フィールドスタディ（地域力再生とガバナンス）体験レポート

公共経営大学院

石山雄登

1. プログラムの実施スケジュール

日程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	8月9日
活動内容	開講式	地元住民の方との意見交換会	和東町雇用促進協議会との意見交換会	プレゼン資料作成	プレゼン資料作成	和東町役場にて政策発表
	和東町探索	和東茶カフェの見学	ペンション経営者との意見交換会		中間発表	京都府庁見学
	懇親会	移住した町民の方との意見交換会	『和東町まつり』実行委員会との意見交換会		政策発表に向けての最終調整	京都府公館にて政策発表
		和東町役場職員との意見交換会 茶畑の見学	茶農家の方々との意見交換会			懇親会

2. プログラムの内容要約・感想

最初の事前講義で、私たちのグループには「和東町の交流人口を増やすには」という課題が与えられ、出発前に数回グループ内で企画会議を行いました。ここでは「交流人口を増やす」という目的達成の為に様々なアイデアを持ち寄り、一つ一つ議論を重ねて検討しました。また、議論の中で一つのアイデアを検討する際には実現可能性、継続可能性、実施のコストとベネフィット、といった行政学で学んだ政策評価基準とアイデアとを照らし合わせて内容を詰めていきました。現地入りする前から時間が経つのを忘れるほど議論が盛り上がったことが印象に残っています。

和東町に到着し、入校式が終わった後、和東茶の入れ方講座を実施していただきました。少し温めのお湯で入れられた和東茶はこの上なく美味しく、衝撃を受けました。あまりの美味しさに自分の中の「お茶観」が変わったことを感じ、そして和東町、和東のお茶のことをより多くの方々に知ってもらいたいと強く思いました。

その後、和東町役場の方々に事前に作成した草案を評価・検討して頂いたのですが、和東町の現状や町役場が既に実施していた政策などを踏まえると実施が困難であるとの厳しい意見を頂きました。それでも数日間草案を実施できないか検討したのですが、和東町役場、『茶源郷まつり』の実行委員会、そして地元住民の

方々に話を伺った結果、草案を生かしながら交流人口を増やすための新たな方法を考え直す方向にシフトしました。現地入りすることで初めて、今までの草案が和束町に適さないことが分かり、実際に現地に足を運びその土地の方々にヒアリングを行うことの重要性が理解できました。

その後、新案の研鑽の為、日夜その実現可能性を高めるために調査や議論を行いました。特に最後の2日間では提案全体を貫くコンセプトの吟味、事例の調査、見込まれる収益やコストの計算、そして和束町民の方々に向けて発表するパワーポイント作成といった作業をグループ内で分担して行いました。そして苦心の末、プレゼン資料が完成したとき、とても大きな達成感がありました。

3. プログラムのおすすめポイント等

まず挙げられることは地域活性化のための現実的な提案を議論の中で練り上げる、という機会が得られることに加え、そのアイデアを現地の方に話を聞きながら修正する、という貴重な体験が出来たことです。

学部を卒業してそのまま大学院に進学した私は、今までインターンシップに参加したことはあっても、実際に現地入りして役所や住民の方々の意見を直接うかがうような機会はありませんでした。そのため、最初は少し不安もありましたが、履修後に振り返ると、このフィールドワークで現地の生の声を聴き、政策を仲間と練り上げ、地域住民の前で発表したという経験は大きな自信となりました。

また、参加していた2グループ全体の雰囲気がとても和やかで活発であったことも印象に残っています。参加した学生たちの年齢や職業こそ異なっていましたが、夕食時には同年代のように砕けた雰囲気で毎晩のように政策立案のアイデアに留まらず様々なことを語り合っていました。そのため、このフィールドワークは同級生との親交を深めるとても良い機会にもなりました。

学内で学べる座学だけではなく、役所や地域住民の生の声を聴いたうえで課題を解決するような体験がしたいと考えている学生には、このフィールドワークを受講することを強く勧めます。